

「特A」奪還に向けて 魚沼米憲章を遵守し 基本技術を徹底しよう

稲作 情報

適正な穂肥と水管理で
品質向上を

● 品種別出穂期予想

今年度の出穂予想は表のとおりとなっております。ただし、今後の天候などにより出穂日が前後することがあります。詳しくは、稲作現地研修会にてお知らせいたします。

● 穂肥は幼穂を確認して ① 幼穂の確認

穂肥の施用にあたっては、幼穂形成期を的確に判断する必要があります。幼穂の長さが1mm〜2mmの時期が幼穂形成期になります。

圃場を見渡して平均的な生育量の株を選び、その中の一番長い茎を抜いて幼穂を確認します。そのときの幼穂の長さで、出穂前日数が推定できます。

一般的に畦畔際は生育が進みますので、最低でも5〜6条中に入って平均的な場所から5〜6本の茎を採取して長さを確認してください。

出穂（しゅっすい）

出穂とは、葉鞘から籾が出ている状態です。



品種別出穂予想

(6月19日現在)

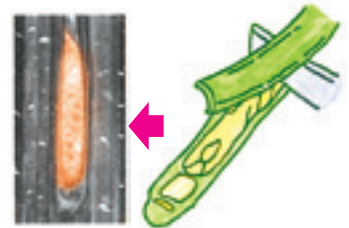
品 種	幼穂形成期	出穂予想日
コシヒカリ	7月12日	8月 5日
こしいぶき	7月 3日	7月27日
こがねもち	7月 6日	7月30日
新之助	7月17日	8月10日
あきだわら	7月22日	8月15日

田植日が異なる場合の出穂予想【コシヒカリ】

(6月19日現在)

田 植 日	幼穂形成期	出穂予想日	穂肥時期の目安 1回目(18~15日前)
5月10日	7月12日	8月 5日	7月18日~21日
5月15日	7月13日	8月 6日	7月19日~22日
5月20日	7月14日	8月 7日	7月20日~23日
5月25日	7月16日	8月 9日	7月22日~25日
5月30日	7月18日	8月11日	7月24日~27日

【幼穂の長さを確認する】



② 適期適量の穂肥を

倒伏しやすいコシヒカリは、1回目の穂肥時期の草丈・葉色・茎数により穂肥量を加減します。

夏に栄養不足とならないよう、2回目の穂肥はしっかり施しましょう。

出穂前10日以降の窒素追肥は、食味を低下させやしますので施肥日に注意しましょう。なお、異常高温が続ぎ葉色が極端に落ちていくような状況では、3回目の穂肥を検討しましょう。

生育診断に基づいた適切な穂肥を実施するために、葉緑素計（SPAD）の貸し出しをおこないます。詳しくは、各営農経済センターへお問い合わせください。

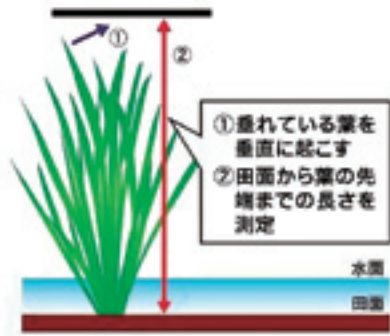
● 中干し以降は飽水管理で

飽水管理とは、圃場を乾かさず、足跡や溝に水がたまっていく状態を保つ水管理です。根の活力を保ち、登熟に必要な栄養分を確保するため、中干し終了後から出穂後25日までおこないます。

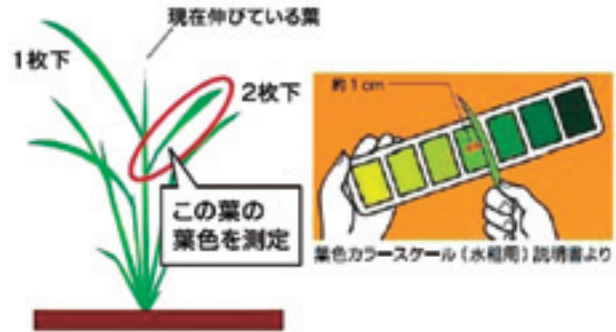
稲作情報



草丈の測り方

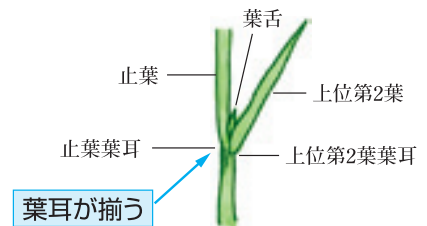


葉色の測り方



品種別穂肥施用時期

品 種 名	穂肥時期 (出穂前日数)	
	1回目	2回目
コシヒカリ	18~15	10
こしいぶき	23~21	14
こがねもち	18~15	10



出穂10日前のめやす
(葉耳間長ゼロ)

穂肥3回目のめやす

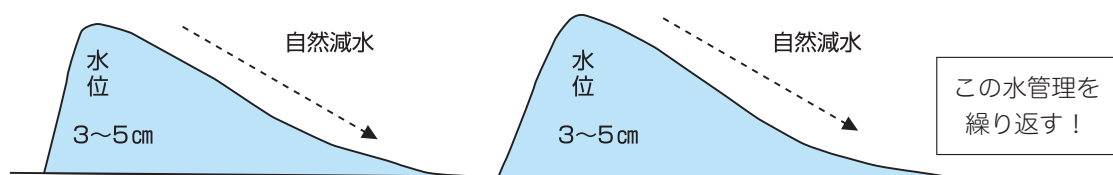
(高温時)

出穂期の葉色がSPAD値で30を下回ると予想される場合、出穂の3日前までに施肥を行う

1回の施肥量

魚沼ロマン 有機穂肥	5~10kg位 /10a当り	特に初回は多すぎないように (有機穂肥は1~2日早めに施用)
越後の輝き 有機50穂肥		

~飽水管理のイメージ~





稲作情報

稲作現地研修会開催のお知らせ

期日：7月10日(火)から7月13日(金) 会場：18会場（開催場所および時間は下記のとおり）

期日	地区	会場	時間
10日(火)	高梨	高梨振興会館前	午後5時
	片貝	片貝カントリー前	午後6時
	東小千谷	旧育苗センター前	午後5時
	中央	西中集会所前	午後6時
11日(水)	城川	西部開発センター前	午後5時
	山谷・坪野	第二カントリー前	午後6時
	小栗田原	第一カントリー前	午後5時
	千田	千田支店前	午後6時

期日	地区	会場	時間
12日(木)	吉谷・時水	時水焼却場前	午後6時
	二俣	旧育苗センター前	午後5時
	山新田	わかとちoffice前	午後6時
	池ヶ原	池ヶ原公会堂前	午後6時
13日(金)	真人	育苗センター前	午後5時
	上片貝	上片貝公会堂前	午後6時
	川井	川井本田集会所前	午後5時
	細島・上坪野	揚水機場前	午後6時
	岩沢東部	冬集会場前	午後5時
	岩沢	南部支店前	午後6時

ご都合に合わせて最寄の会場へお越しください。

農業空容器・廃棄農薬の回収のご案内

7月16日(月) 当日のみの受付

回収場所 総合営農経済センター
片貝営農経済センター

回収時間 午前9時～正午

対象品目 (当JAで購入した物のみ回収対象)

- (ア) 農業空容器…使い終わった農薬の容器
(ポリ容器・ビン・缶・紙)
- (イ) 廃棄農薬…期限切れなどで使わない農薬等
※ビニール・マルチ等は回収いたしません。

処理料金

- (ア) 農業空容器
ポリ容器・缶・紙…310円(税込) /kg
ビン …260円(税込) /kg
- (イ) 廃棄農薬 …280円(税込) /kg

包装要領および注意点

- 空容器はよく洗ってください。
- 容器形態により分別して、それぞれ別のダンボールに詰めて搬入してください。
- 農業空容器と廃棄農薬は別々に包装してください。
- 肥料袋に詰めて出さないでください。
- 水銀剤・PCP剤の回収はできません。
※包装要領をお守りいただけないとお引き取りできない場合がございます。

農業者は、農業用使用済みプラスチック等を適正に処理する義務があります。その為には、産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付や管理事務を各自で行わなくてはなりません。

JAでは、農業者の上記事務作業を軽減するため、事務代行を行います。事務代行には、農業用使用済みプラスチック等を排出する農業者より委任状を提出して頂く必要があります。

委任状は今号の広報誌に折り込んでありますので、ご確認ください。

お問い合わせ 資材課 ☎83-3845